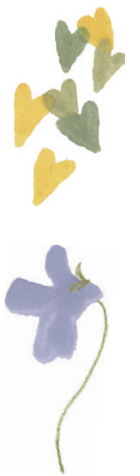




通信

認知症
三二講座①

認知症を知る 「認知症」という言葉は 「病名ではない」ということをご存知ですか？



私たちは「認知症」の利用者さんに寄り添いながら支援することをめざしています。その方の今まで過ごしてきた環境や習慣、そして病名によっても関わり方が変わってくるため、「認知症」の症状を知ることが重要です。しかし、専門の検査を受けていない方も多くいらっしゃいます。

「認知症」の意味は、「正常に発達した知能が低下した状態」をいいます。つまりよく耳にする「認知症」という状態には、原因となる病気がいろいろあり、その病名によって症状も違うということです。聞き慣れた病名ではアルツハイマー型認知症、そのほかにもレビー小体型や脳血管性認知症などがあります。



いろんな種類の病名があるのね



では、どうしたらはつきりとした病名が分かるのでしょうか。現在は、脳を画像化したり、脳血流を確認したりする医療機器があり、脳の萎縮の有無や血流に異常がないかを検査し、病名の特定と進行状況を、より確実に把握することができます。ひと昔前までは大きな総合病院にしかありませんでしたが、今では地域の医療機関にも設置されている場合もあります。

「それなら「認知症」と診断されただけのウチのおばあちゃんも、今から検査すれば病名が分かるの？」ということになります。検査を受けるには30分間じつと狭い空間で横になつていないといけません。「認知症」の方は説明を受けても忘れてしまうことがあるので機械の音と真つ暗な空間の中で検査の間おとなしく横になつていないことは困難でしょう。しかし病名が的確に診断されれば症状が進行しても、対応

方法が理解できます。病名によっては飲む薬も違ってきます。症状が緩和する場合もあります。またインターネットで検索すれば、病状や対応を調べることができるでしょう。症状が進んでしまふ前、なるべく初期の段階に病院を受診して、問診で症状を伝え検査を受け、的確に診断してもらつことでもつと「認知症」の理解が深まると思います。

坂井きらめき 石川陽子



症状が悪化する前に
専門の病院で
的確な診断を
してもらいましょう!

